

平成20年度猪名川町中学校学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課教育支援室

■調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、領域・観点ごとにその実態を分析することにより、学習指導上の問題点及び学習指導の改善点を明らかにする。

■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

■調査対象

- 町内の公立中学校第2学年の生徒
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■調査日

- 平成21年1月22日（木）

■調査結果

【中学校の調査結果】

町内全体

		正答率（％）		
		期待正答率	全国平均	調査結果（町）
中学校第2学年	国語	69.2	71.5	77.6
	数学	65.2	63.3	75.4
	英語	64.3	64.8	75.0

■中学校第2学年

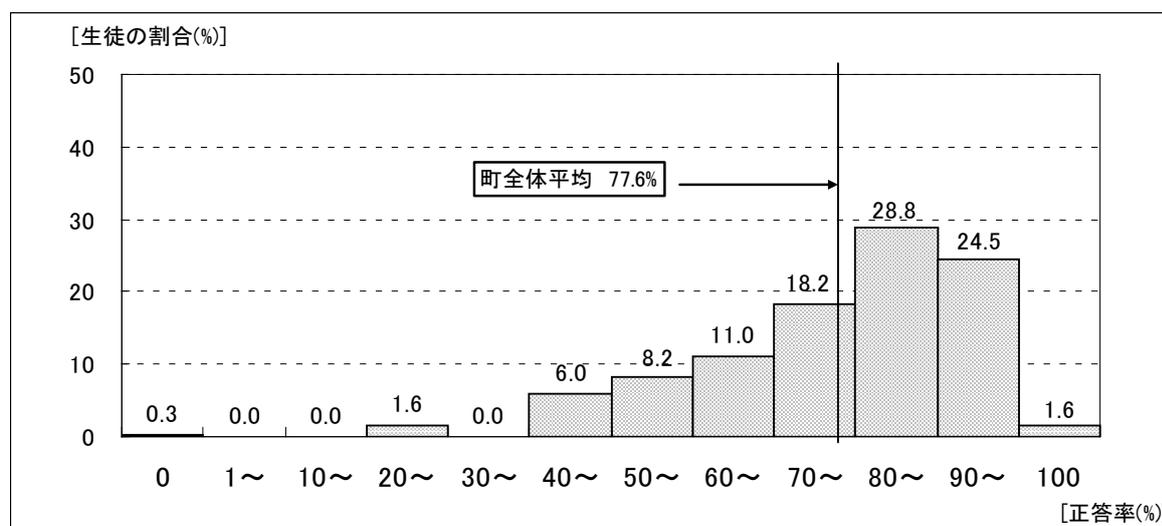
1 国語の正答率

期待 正答率	町全体
69.2	77.6

○中2国語の町全体正答率は77.6%で、期待正答率を8.4ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の割合	0.3	0.0	0.0	1.6	0.0	6.0	8.2	11.0	18.2	28.8	24.5	1.6



○町全体では、正答率80%以上の生徒が54.9%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が7.9%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
期待正答率(%)	75.0	67.0	69.0	68.3
町全体正答率(%)	78.9	79.3	72.5	80.6
差(%)	3.9	12.3	3.5	12.3

①話すこと・聞くこと

期待正答率75.0%に対して正答率は78.9%で、3.9ポイント上回っている。

詳しく見ていくと、大問1(2)の発表の仕方の工夫では、正答率が69.0%と期待正答率を1.0ポイント下回った。一方、(4)の自分の意見と理由を書くところでは、正答率は95.1%と期待正答率を10.1ポイント上回った。

発表の仕方の工夫を聞き取るには、話の展開の仕方を予測しながら聞く必要がある。メモを取る際に、「意見」「理由」などの見出しをつけるように指導するとよい。

②書くこと

期待正答率67.0%に対して正答率は79.3%で、12.3ポイント上回っている。

決められた字数内で書くことの正答率は80.9%で、期待正答率を15.9ポイント上回っている。また、三段落構成を考えて書くことの正答率は72.4%と、期待正答率を7.4ポイント上回り、第1～第3の各段落でも必要な事柄を書くことはできている。引き続き、段落意識を持って書くことを指導していきたい。

③読むこと

期待正答率69.0%に対して正答率は72.5%で、3.5ポイント上回っている。

大問2の説明文の読み取りでは、各問の平均正答率が66.9%と、期待正答率を1.1ポイント上回った。しかし、詳しく見ていくと、(3)の文章の展開に即して内容をとらえ記述する問題では、2問中1問の正答率が34.6%と、期待正答率を15.4ポイント下回っている。文章の論理の展開をとらえられていない生徒が多かったようである。

一方、大問3の文学作品の読み取りでは、各問の平均正答率が81.0%と、期待正答率を7.2ポイント上回った。詳しく見ていくと、(2)の心情を押さえて適切な箇所に一文を挿入する問題では、正答率は95.3%と期待正答率を10.3ポイント上回った。また、(4)の表現の仕方や文章の特徴に注意して読む問題でも、正答率は69.3%と期待正答率を9.3ポイント上回ったが、さらなる向上が望まれる。作品を読む際には、言葉の使い方や表現の工夫にも着目させるようにしたい。

④言語事項

期待正答率68.3%に対して正答率は80.6%で、12.3ポイント上回っている。

文法の正答率は、大問4(1)の主語と述語の関係についての問題で89.7%、(2)の自立語と付属語についての問題で72.7%と、いずれも期待正答率を10ポイント以上上回った。また、語句に関しては、大問5(1)の類義語の問題では、正答率は94.7%と期待正答率を14.7ポイント上回ったが、(2)の同訓異字の問題では、正答率は58.0%と期待正答率を2.0ポイント下回った。

漢字の読みについては、各問の平均正答率は85.9%と、期待正答率を7.1ポイント上回った。また、書きについても、平均正答率は77.1%と、期待正答率を17.1ポイント上回った。今後も小テストなどを通して、こまめに漢字の定着状況を確認することが大切である。

(2) 観点ごとの分析

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
期待正答率(%)	71.0	75.0	64.6	69.0	68.7
町全体正答率(%)	83.9	78.9	74.5	72.5	80.4
差(%)	12.9	3.9	9.9	3.5	11.7

①国語への関心・意欲・態度

期待正答率71.0%に対して正答率は83.9%で、12.9ポイント上回っている。

ただし、無解答率が、話すこと・聞くことの自分の考えを書くところで1.6%、説明文の読み取りの記述で7.2%と8.2%、作文で4.4%であった。特に説明文の読み取りの記述で無解答が多く、難しい問題に取り組むことに対して抵抗感を感じている生徒がいることが考えられる。日頃から書く機会を設定し、まず自分なりの答えを書く習慣をつけることが大切である。

②話す・聞く能力

期待正答率75.0%に対して正答率は78.9%で、3.9ポイント上回っている。

話し合いの場面では、何のための話し合いなのかを押さえる必要がある。話し合い全体を見通すことで、話し合いの進め方についても、意識して聞くことができるようになると考えられる。

また、話し方の工夫については、国語の授業にとどまらず、クラスでの話し合いや発表学習などの機会

を活用して、指導していきたい。

③書く能力

期待正答率64.6%に対して正答率は74.5%で、9.9ポイント上回っている。

今回出題された問題は、グラフから違いを読み取り、それに対する自分の考えを書くというものである。文章だけでなく、図や表、グラフなど様々な題材を取り上げ、書く練習を積ませることが大切である。

また、三段落構成で書くことは、多くの生徒はできているが、まだ書き方が身につけていない生徒もいる。基本的な文章の書き方や原稿用紙の使い方については、再度確認しておく必要がある。

④読む能力

期待正答率69.0%に対して正答率は72.5%で、3.5ポイント上回っている。

説明文では、筆者の考えが述べられているところやキーワードに線を引きながら読ませ、筆者の論の展開を正しく把握させることが大切である。また、筆者の主張を短い言葉でまとめさせることも有効である。

文学作品については、大まかなあらすじを理解した上で、場面の状況や登場人物の心情を押さえることが大切である。叙述をもとに、丁寧に読むことを習慣づけたい。

⑤言語についての知識・理解・技能

期待正答率68.7%に対して正答率は80.4%で、11.7ポイント上回っている。

よく使う対義語や類義語は、日頃から資料集などで確認させるとともに、新出単語を扱う際にも取り上げることが大切である。その際、単語のみを取り上げるのではなく、短文作りなどを通して、その文脈の中で意味や使い方を理解させることが必要である。単に知識を与えるのではなく、実際の言語活動の場面を想定して指導していきたい。

■中学校第2学年

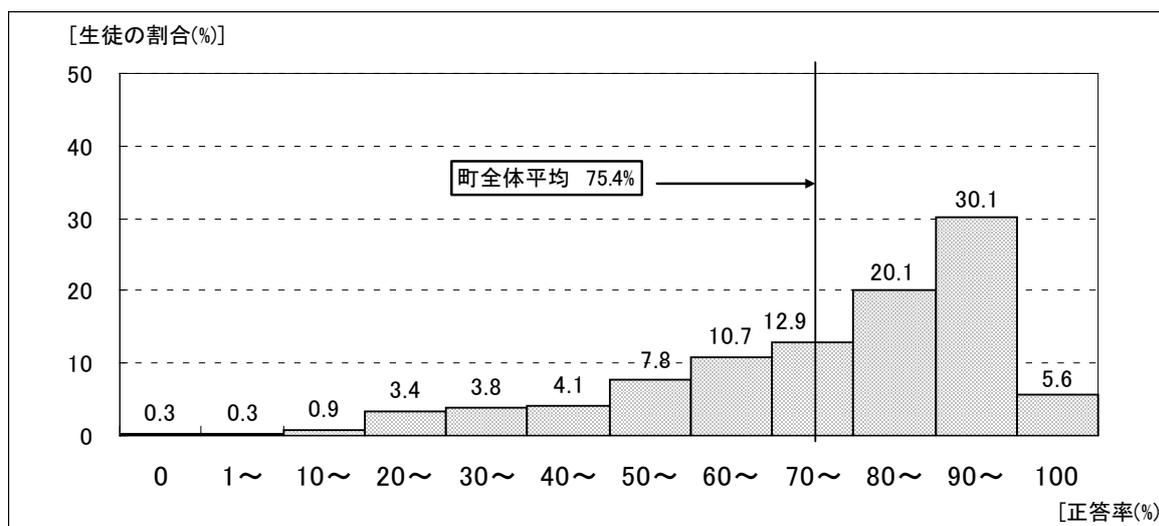
2 数学の正答率

期待 正答率	町全体
65.2	75.4

○中2数学の町全体正答率は75.4%で、期待正答率を10.2ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
生徒の 割合	0.3	0.3	0.9	3.4	3.8	4.1	7.8	10.7	12.9	20.1	30.1	5.6



○町全体では、正答率80%以上の生徒が55.8%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が12.8%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	数と式	図形	数量関係
期待正答率(%)	68.6	61.3	64.5
町全体正答率(%)	80.2	68.5	75.5
差(%)	11.6	7.2	11.0

①数と式

期待正答率68.6%に対して正答率は80.2%で、11.6ポイント上回っている。

小問ごとの結果を見ると、半数以上の問題で、正答率が期待正答率を10ポイント以上上回っている。ただし、大問1(5)の等式を変形してある文字について解く問題では、誤答が選択肢②に集中しており、等式の性質を十分に把握していない様子が見える。両辺を2倍したり2でわったりする場合には、必ず両辺のすべての項を2倍するか、もしくは2でわることを理解させる必要がある。

②図形

期待正答率61.3%に対して正答率は68.5%で、7.2ポイント上回っている。

ただし、大問11の証明の間違いを指摘し、その理由を明らかにする問題では、正答率は期待正答率を上回っているものの、誤答率が45.5%に達している。

指摘すべき間違いの箇所は、証明の過程で誤って結論を使ってしまっている点である。仮定・結論・証明の位置づけを確認し、根拠を明確にしていくことが大切である。

③数量関係

期待正答率64.5%に対して正答率は75.5%で、11.0ポイント上回っている。

ただし、大問5(1)では、 x の増加量4を $x=4$ として y の値を求めてしまう誤答が多く見られた。増加量の意味については、丁寧に指導しておく必要がある。

また、大問8の動点のつくる図形の面積変化を式に表す問題では、選択肢④の出現率が高いが、これは x 項の部分を $\div 2$ していないものである。面積の考え方自体は、大半の生徒はできていることから、計算の過程で間違えないように指導したい。

(2) 観点ごとの分析

	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
期待正答率(%)	45.0	58.2	66.5	67.1
町全体正答率(%)	54.2	67.6	76.8	78.0
差(%)	9.2	9.4	10.3	10.9

①数学への関心・意欲・態度

期待正答率45.0%に対して正答率は54.2%で、9.2ポイント上回っている。

ただし、大問9(4)の自分の考えを文章にまとめさせる問題では、無解答率が6.6%となっている。単に計算技能や知識を習得させるのではなく、生徒一人一人に考えさせる授業を展開することが必要である。数学に対する興味・関心を持たせ、無解答を減らすことが、正答率全体を押し上げることにつながる。

②数学的な見方や考え方

期待正答率58.2%に対して正答率は67.6%で、9.4ポイント上回っている。

ただし、大問11や大問12(2)では、正答率がいずれも50%台にとどまっており、証明の根拠を明らかにすることを苦手とする生徒が多いと考えられる。

授業の中で、生徒に自分の解答を説明させたり、生徒同士で教え合わせたり、意見交換を活発にさせたりするなど、指導方法を工夫したい。

③数学的な表現・処理

期待正答率66.5%に対して正答率は76.8%で、10.3ポイント上回っている。

ただし、大問10(4)では、二等辺三角形の2角が等しくなる性質を十分に活用できておらず、無解答率が6.0%とやや高くなっている。この問題では、2つの二等辺三角形が組み合わさっているが、等しくなる角に印をつけたり、図形を他の角度から見て考えたりする習慣をつけることが大切である。

④数量、図形などについての知識・理解

期待正答率67.1%に対して正答率は78.0%で、10.9ポイント上回っている。

特に問題となる点は見あたらないが、「知識・理解」においては、深く掘り下げて考えさせることが大切である。例えばグラフを扱う場合には、言葉・表・式・グラフなど様々な方法で表現させ、生きた知識として身につけさせることが必要である。

■中学校第2学年

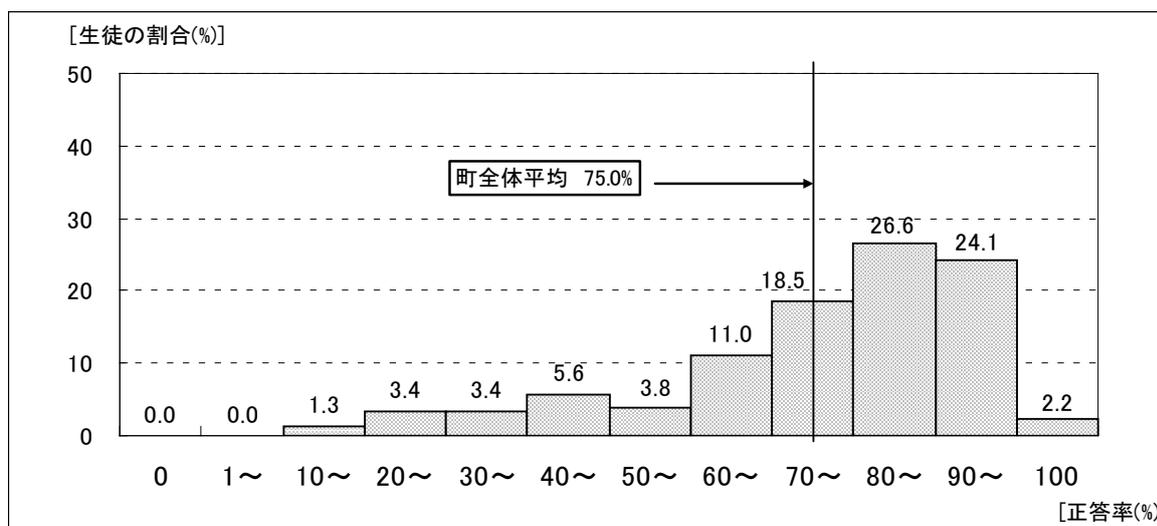
3 英語の正答率

期待 正答率	町全体
64.3	75.0

○中2英語の町全体正答率は75.0%で、期待正答率を10.7ポイント上回っている。

町内全体

正答率	0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
生徒の 割合	0.0	0.0	1.3	3.4	3.4	5.6	3.8	11.0	18.5	26.6	24.1	2.2



○町全体では、正答率80%以上の生徒が52.9%を占めている。一方、正答率50%未満の生徒が13.7%存在する。

(1) 領域ごとの分析

	聞くこと	読むこと	書くこと
期待正答率(%)	74.0	64.4	53.3
町全体正答率(%)	81.1	74.4	69.4
差(%)	7.1	10.0	16.1

①聞くこと

期待正答率74.0%に対して正答率は81.1%で、7.1ポイント上回っている。

しかし、大問2(1)(3)において、正答率が期待正答率に達していない。まずはキーワードをもとに、何について話しているのかを把握することが大切である。会話の一部から内容を判断するのではなく、話の全体をとらえられるようにしたい。

また、正しい選択肢を選ぶには、動詞や時制を聞き取ることも求められる。基本となる動詞とともに、未来、過去、現在などの表現を正確につかむことが必要である。

②読むこと

期待正答率64.4%に対して正答率は74.4%で、10.0ポイント上回っている。

しかし、大問3(1)(5)において、正答率が期待正答率を10ポイント以上下回っている。

問題文は、家族でニューヨークに移住する話であるが、文中に月を表す表現が数カ所出てくるため、混乱しやすい。時間の経過をメモし、話の流れを整理しながら読んでいくとよい。特に(5)はやや細かいことを問うており、間違いやすいところである。一つ一つ問題文の内容と照合し、誰についての記述なのかを確認しながら、正しく解答できるようにしたい。

③書くこと

期待正答率53.3%に対して正答率は69.4%で、16.1ポイント上回っている。

しかし、大問7(1)において、正答率が期待正答率に達していない。

want to～は非常によく使う表現であるにも関わらず、半数以上の生徒が英作文で正しく書けていない状況である。こうした定型表現は、授業中のコミュニケーション活動の中で繰り返し使わせ、定着を図ることが大切である。また、教科書のキーセンテンスを書かせたり、ディクテーションを行ったりするなど、日頃から書く練習を積ませることが必要である。

(2) 観点ごとの分析

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
期待正答率(%)	65.6	53.8	70.0	58.6
町全体正答率(%)	75.5	69.3	77.2	75.4
差(%)	9.9	15.5	7.2	16.8

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

期待正答率65.6%に対して正答率は75.5%で、9.9ポイント上回っている。

しかし、リスニングパートの大問2(1)(3)、およびライティングパートの大問7(1)において、正答率が期待正答率に達していない。また、無解答率は、大問3(4)で9.7%、大問7(1)で7.8%、大問8で8.2%とやや高くなっている。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度は、授業の中にどの程度コミュニケーション活動を取り入れているかに関わっている。スキットやスピーチは、自分自身の事柄を英語で表現し、アウトプットできる有効な手段であるので、積極的に取り入れていきたい。そうした活動を通して、英語がコミュニケーションの道具として活用できるという実感を、生徒に持たせることが大切である。

②表現の能力

期待正答率53.8%に対して正答率は69.3%で、15.5ポイント上回っている。

しかし、ライティングパートの大問7(1)において、正答率が期待正答率に達していない。

書く力を伸ばすには、毎回の授業の中で書く機会を設けることが大切である。ただし、授業だけでは十分な時間を確保できないことから、日記やスピーチ原稿を書かせるなど、家庭での課題を課すことも必要である。

③理解の能力

期待正答率70.0%に対して正答率は77.2%で、7.2ポイント上回っている。

しかし、リスニングパートの大問2(1)(3)、およびリーディングパートの大問3(1)(5)において、正答率が期待正答率に達していない。

理解の能力を伸ばすためには、題材に繰り返し触れさせ、生徒の理解を深めていくことが大切である。授業で新しい題材を取り入れた場合には、内容に関する問いかけを行い、題材文を繰り返し読ませることが必要である。また、読むことに関しては、教科書のレッスン以外の題材を活用し、自力で読み進める力

を養うことも考えられる。

④言語や文化についての知識・理解

期待正答率58.6%に対して正答率は75.4%で、16.8ポイント上回っている。

該当するすべての小問において、正答率が期待正答率を10ポイント以上上回っており、特に問題となる点は見あたらない。引き続き、日々の小テストなどを通して、単語や文法の定着状況を把握することが大切である。また、以前に学習した内容についても、定期的に復習する必要がある。